



拓北・あいの里地区社協ミニ通信

拓北・あいの里地区社会福祉協議会

会長：渡邊 寛 広報部長：森下 満

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

No 88

令和 6年 8月 19日

**8月7日(水)に社協常任理事会が行われました。
各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。**



新型コロナの感染が全国的に拡大し、
第11波を迎えているようです。
気を付けましょう。

■ 総務部より ■

・福祉除雪の新規協力員さんの募集

昨年度は地区の116世帯が福祉除雪を利用し、42名・団体の皆様が協力員さんとして活動して下さいましたが、ご利用世帯に比べ約3分の1と少ない状況です。新たに除雪活動に協力していただける地域協力員さんを募集しています。(詳細は各町内会に回覧されている募集チラシを参照して下さい。)

また、8月31日(土)14時から、地区センター1階多目的ホールにて「福祉除雪説明会」を行います。

■ ふれあい交流部より ■

・8月8日(木)の「ひまわりクラブ」は地区センター和室に5組10名の親子さんが参加され、自由遊び、絵本の読み聞かせなどを楽しまれました。

次回は9月3日(木)10:00~11:30、拓北・ひまわり会館にて開催予定です。

・「福まちサロン」は7月25日(木)10:00~11:30、拓北会館に8名の高齢者が参加され、ポッチャ、カードゲーム「虹色のへび」、クイズ、合唱「すいかの名産地」などを楽しまれました。特に新しい試みのポッチャと虹色のへびは好評でした。

次回は8月22日(木)10:00~11:30、地区センターにて、次々回は9月26日(木)10:00~11:30、拓北パレス会館にて、それぞれ開催予定です。



5組・10名の親子さんたちが参加した、8月8日のひまわりクラブ



ご高齢の方8名が参加した7月25日の福まちサロン。ポッチャを楽しんでいる様子



福まちサロンで、カードゲーム「虹色のへび」を楽しんでいる様子



地区センター31名、オンライン4名、合計35名が参加した、7月16日の地域ケア部の例会

■ 地域ケア部より ■

7月例会は16日(火)18:30~20:00、本社協地域ケア部部長・拓北あいの里ケア施設町内会代表幹事である北海道医療大学病院医療相談・地域連携室・吉野夕香(よしの・ゆか)、及び本社協地域ケア部部員、北海道医療大学病院・工藤恭子(くどう・きょうこ)をゲストに「ソーシャルワーカーと地域医療のこれから」をテーマに、地区センター2階集会室にて話題提供をいただき、意見交換を行いました。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行われ、参加者は地区センター31名、オンライン4名、合計35名。

2年前の2022年4月から、北海道医療大学病院医療ソーシャルワーカーとして勤務している工藤からの、病院で働くソーシャルワーカーって??、という問いかけから始まりました。

医療ソーシャルワーカーは倫理綱領・業務指針に基づいて行う専門職で、厚生労働省の『医療ソーシャルワーカー業務指針』では、その業務として、①療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助、⑥地域活動、の6つが示されている、との説明がありました。

わかりやすい事例として、Aさん、80代男性、病院近隣に一人暮らし(持ち家)、内科・泌尿器科に

定期通院中、認知機能低下の懸念有り、頼れる家族はいない等、が紹介されました。院内の外来看護師から、最近、Aさんの受診忘れ、院内で迷子になること、問診でのちぐはぐな受け答えなど、Aさんへの介入相談がありました。そこでAさんと面談し、日常生活の様子や介護保険申請等についての聞き取りを行い、「家で暮らしたい」という要望を把握し、またAさんの同意を得て介護保険申請を行いました。その矢先にAさんは雪かきで腰を痛めて歩行が困難な状況になったので、地元の小規模多機能型居宅介護（以降、小多機）の施設に受け入れの相談を行いました。小多機スタッフさんからの、受診に合わせて一度顔合わせがいいのでは、との提案を受け、Aさんと相談し、Aさん、小多機スタッフさん、自分の3者が院内で顔合わせの機会をつくりました。小多機さんに訪問に入ってくださいことになり、Aさんの生活面が見えてきました。小多機スタッフのケアマネジャーさんとのAさんに関する情報共有をしながら、受診・健康面と特に生活面での継続的なサポートを行っています。少しでも、Aさんの望む「家で暮らしたい」の希望に添えるように、多職種・他機関と連携しながら、関わり続けています。



7月例会のゲストが勤務している北海道医療大学病院の外観

続いて、吉野からはソーシャルワーカーのより理論的、普遍的な説明がありました。

世界保健機関（WHO）憲章前文には、健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます、とあります。このBPSモデル、すなわちバイオ（Bio）：健康状態やADL、IADLの状況など、サイコ（Psycho）：心理状態や意欲、意思の強さ、嗜好、生活やサービスを含む満足度など、ソーシャル（Social）：家族や親族、近隣、友人関係、住環境、就労状況、収入、利用可能な社会資源など、の3つの側面が複合的に作用しあうことに注目し、患者の動機づけやセルフケアの実現への支援を、医療現場を介して行う者を医療ソーシャルワーカー＝Medical Social Worker（MSW）といいます。

介護サービスは、地域でケアマネジャーを介して患者さん、その家族、病院等諸々の関係機関各々の情報が共有される「医療介護連携」が行われていますが、医療サービスでは、医療機関同士・介護事業所で医療ソーシャルワーカーを介して各々の情報が共有される「医科歯科連携・医療介護連携」が行われているのです

拓北あいの里地区周辺の医療機関をみると、病院だけでも種類がたくさんありますが、今後も患者さんが安全で質の高い、必要な医療を受けられるようにするためには、医療機関同士の役割分担と医療、介護の連携が重要になり、調整役である医療ソーシャルワーカーの役割は大きいと思います。

☆医療ソーシャルワーカーは、医療・介護・地域の連携窓口を担っています。患者さんでも医療・介護のスタッフさんでも、「困ったな、どこに聞いたらいいのかな」と思ったら、まずは私たちのような医療ソーシャルワーカーを思い出して活用して下さい！

なお、8月例会は20日（火）18：30～20：00、地区センター2階集会室にて、区社協・第2層地域支援コーディネーター・福本大智さんをゲストに、「災害ボランティアセンターでの活動報告ー石川県志賀町での活動をもとにー」をテーマに話題提供をいただき、意見交換を行いました。その内容については次号の89号で報告いたします。

◇ 今後の予定 ◇

9月例会は17日（火）18：30～20：00、地区センター2階集会室にて、札幌あいの里不動産社長の岩本寿夫さんをゲストに「ニュータウンから高齢者のまちへ ◆不動産業から見るあいの里の今むかし ◆高齢者の不動産取引の諸問題 他」をテーマに、話題提供をいただき、意見交換を行う予定です。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行います。「ケア施設町内会会員メーリングリスト」登録者にはZoomアクセス情報をお知らせします。その他の方はケア施設町内会事務局・長谷川までメール hasepy55@gmail.com でお問合せ下さい。

■ ボランティア企画部より ■

・ボランティア企画部再スタート！

7月5日（金）10時から、地区センター福まちの部屋で、久方ぶりにボランティア企画部の打合せ会議が行われました。部長の木村、部員の七條、田中、平、鬼塚に加え、生活支援ボランティア登録希望者9名、渡邊会長、北区社協の佐竹さんと福本さんの総勢16名が出席し、生活支援整備事業とそれを担うボランティアの立ち上げについて意見を交わしました。

今後の事業化に向けて、①生活支援組織体制の検討、②支援を必要としている人の掘り起こし、③民生委員活動との整合性及び役割分担、④生活支援体制の確立及び周知、⑤生活支援活動の手順の検討、について話し合いました。



7月5日のボランティア企画部の打合せ会議の様子